



# 営農情報

第64号 平成29年10月3日

## 「あまおう」10月の管理

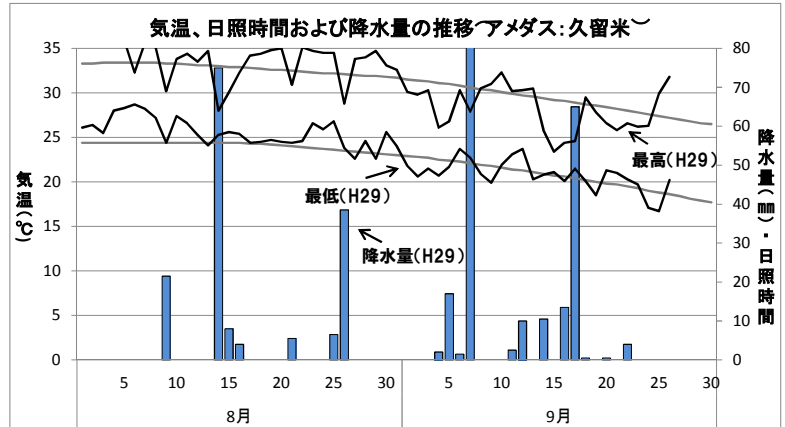
南筑後普及指導センター  
福岡大城農業協同組合

### 10a 当たり収量 5t 以上を目指しましょう

この資料は平成29年9月26日現在の登録資料に基づいて作成しています。農薬使用の際にはラベルや袋に記載されている適用作物などの登録内容と有効年月を確認してください。

#### 花芽分化のまとめ

8月下旬までは気温が高く、普通作型での花芽分化遅れが懸念されましたが、分化の中心は9月20日～23日で、ほぼ平年並みになりました。定植は9月25日までにほぼ終了しました。



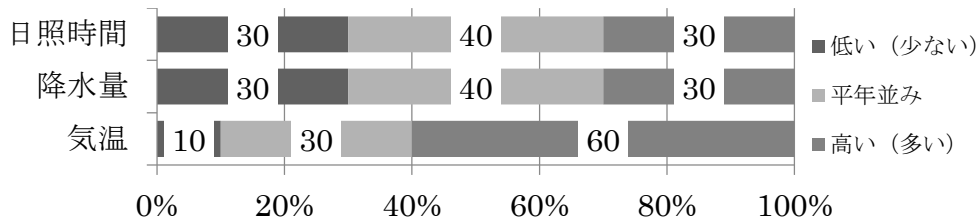
気象の経過（アメダス久留米より）

#### 気象予報と今後の見通し

##### (1) 気象予報

福岡管区气象台が発表した1か月予報は次のようになっています。

- 1か月予報（九州北部地方 予報期間：9月30日～10月29日 発表日9月28日）



##### (2) 今後の見通し

10月は平年より気温が高い予報となっていることから、生育が旺盛になった場合は2番果房の花芽分化遅れが懸念されます。また育苗期間中にハダニ類と炭そ病の発生が多かったことから、今後も発生の拡大に注意しましょう。

#### 今後の管理のポイント

##### [懸案事項]

- ①早期作型における2番果房の花芽分化遅延
- ②炭そ病とハダニ類の発生拡大

##### [対策]

- ①寒冷紗を被覆して、花芽分化を誘導する。2番果房の分化を確認して被覆を除去する（被覆期間の目安：9月25～10月20日）。
- ②定期的に薬剤による防除を行う。特に、葉かき後の防除を重点的に行う。（葉かきによるクラウンの傷口は炭そ病の感染経路になる。また、葉かき後はハダニ類のいる葉裏に薬液がかかりやすいため）。

**2番果房の花芽分化を促進する為、寒冷紗被覆を行い、かん水を控える。**

**2番果房が分化したら、寒冷紗を除去し、生育を後押しする。**

## 【10月10日頃の草勢の目安】

### 寒冷紗被覆した場合

作型	展開した最大葉の葉幅	葉長
早期作型 (9月15日頃定植)	8.5cm	9cm

※寒冷紗被覆しない場合は、マイナス1cm。

これ以上になると1番果房と2番果房の内葉数が多くなる可能性がある。

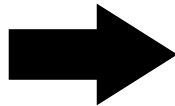
また、これより極端に劣る場合は、無理な抑えはしない。

- 葉幅の長さにより草勢を判断し、かん水量と寒冷紗被覆期間を調整する。

### 草勢の判断の目安（早期作型）



最大葉の葉幅を計測する



10月上旬の最大葉幅長（定植後出葉した中で最も大きい葉の横の長さ）を測定する。

### 1 かん水管理

#### ① 活着までの間

極端なかん水は避けて少量多回数かん水に心がけ、順調に活着させる。

活着後はかん水を控えながら、2番果房分化後は生育に応じてかん水を調節し、根張りを良くする。10月上旬頃のかん水の目安は葉が軽く内側にまく程度！

#### ② マルチ後から果実肥大期

マルチ後はチップバーンを予防するため十分なかん水を行う。

収穫期には着色・食味を考慮して控えめのかん水とする。

土壤条件が思わしくない場合などは、発根促進資材や土壤改良資材を利用して活着を助け、新規の発根を促す。

### 2 株整理（下葉除去・どろ芽除去）

○定植20日目頃から、傷んだ葉・枯葉を取り除く程度の摘葉を実施し、葉数を確保するため、かぎすぎないよう最低限の摘葉とする。

○摘葉しすぎると心葉の展開が急激に進み、2番果房の分化に悪影響となるので極端な摘葉は避ける。

○ハダニやうどんこ病などが発生した場合、古葉枯葉を摘葉し、薬剤散布を実施する。

○不要な腋芽やクラウンから発生するドロ芽・ランナーは早めに除去する。

### 3 マルチ

「早期作型」では頂果房の出蕾が始まったら、花蕾を傷めないようにマルチ被覆を済ませます。「普通作型」では10月下旬が目安になります。

○「マルチ」によって地温や水分条件が変化するため、生育が旺盛な時期には、急激な乾燥によるチップバーン等に注意する。

また、マルチ被覆が早すぎて生育旺盛となった場合は、2番花房の分化が遅れる傾向があるため注意する。

○根張りを十分に確保するため、最初はマルチのすそを畝肩まで上げておく。

地温が13℃以下まで下がり始める10月末～11月上旬頃に通路まで下ろして全面被覆にし、地温確保とハウス内湿度の低下を図る。

○適期から遅れて定植したほ場や、生育が悪いほ場では、生育促進のために早めのマルチを行う。

（裏面へつづく）

## 4 追肥

### 追肥は2番果房分化後の施用が基本！

2番果房の分化時期は、作型や気象条件によって変動するため、早期作型では10月中旬以降、普通作型では10月下旬以降です。この時期の生育状況によっては、2番果房の分化が遅れることがあります。

- 活着不良等で生育が悪い場合は、液肥や葉面散布で生育促進を図る。
- マルチ前追肥は、2番果房の花芽分化を確認した後施用する。(10月中旬頃)
- 草勢が旺盛(10月上旬で最大葉幅8.5cm以上)で、マルチ被覆までに2番果房の分化が確認できない場合は、畝上の追肥を控え2番果房の分化後に溝肥を施用する。
- 普通作型の場合、追肥はマルチ張り(10月下旬頃)の3～4日前に行う。

### 【追肥量の目安】

肥料名	成分率 (%)	投入量 (kg/10a)	窒素量 (kg/10a)
あまおう専用肥料	8-6-3	60kg	4.8kg
新生いちご配合	6-6-4	80kg	4.8kg

## 5 ビニル被覆と寒冷紗

○定植後からの寒冷紗は2番分化確認後速やかに除去する。

○ビニル被覆は平均気温が16℃程度となる10月20日すぎが目安。

○被覆は第2果房の花芽分化後に行うのが基本です。既に1番果房が開花している場合で雨天が予測される場合は、速やかにビニルを被覆する。(花に強い雨があたり、奇形果の発生が懸念されるため)

- ビニル被覆後は、サイド・妻面を開放し、出来るだけ気温が上がらないようにする。
- サイドや妻面は、最低温度が10℃を下回るようになったら、閉め込みを行う。  
※ただし、閉めこみ後、夜温10℃を上回る日は換気を行い、果実の早熟や急激な株の立ち上がりを防止する。
- 草勢が弱い場合、早めにビニルを被覆して、やや高めの温度管理で生育促進を図る。

### 果房の生育状況別温度管理の目安

頂果の状況	昼間	夜間	備考
～着果期	26～28℃	10℃	新葉の生育促進
着果期～白熟期	24～26℃	7～10℃	
白熟期～収穫期	20～24℃	5～7℃	収穫中は品質向上のため低めの管理

## 6 ジベ処理

- 1番果房出蕾直後～開花直前に、10ppmで5cc/株の処理を行う。
- 湿度が低いと効果が低いので、かん水後に処理する。
- 開花後にジベレリン処理した果実は、奇形果になる可能性があるので開花前に処理する。

ジベレリン使用した際には、忘れずに防除履歴に記帳してください

## 7 ミツバチの導入と管理

○農薬のミツバチへの影響日数には余裕を持って防除する。

○巣箱の搬入は、頂果房の開花7日前までに行い、環境に適応させる。

○一般にミツバチは20～23℃前後で最も活発に訪花活動し、14℃以下の低温や25℃以上の高温条件下ではほとんど訪花しないので、ミツバチが活動し易い温度管理に留意する。

寒冷紗を被覆したハウスにミツバチを搬入する場合は、訪花を促すため巣箱をハウス内に入れておく。

○巣箱はハウスの外に設置し、ハウスにミツバチの出入り口を設ける。

全国的に交配用のミツバチが不足ぎみとなっています。ハチの管理等は養蜂農家と充分に相談し、健全なミツバチで確実な交配を心がけて下さい。

## 8 病害虫

- ダニの発生が続いている。また、今後ヨトウムシやスリップスの発生も増えるので、早めの防除を心がける。
- ダニの防除についてはマルチ前後の摘葉後、発生の有無にかかわらず、コロマイト水和剤、アファーム乳剤など効果の高いダニ剤を必ず散布する。また、回数制限のないフーモンなど気門封鎖剤も活用する。ただし、殺卵効果のあるダニ剤と組み合わせて散布する。
- 定植後の炭そ病の発生も懸念されるので確認した場合は、除去、補植、防除を行う。また、うどんこ病の予防防除は確実に行う。

## 9 親株の管理

- 本田の栽培面積に応じて、十分な親株本数を定植する（本田栽培面積10aあたり600～800株）。
- 炭そ病が発生していない健全な苗を使用する。
- 年内に生育を旺盛にした株の方が、春先のランナー発生が多くなるので、11月までに定植を終わらせておく。
- 数が不足する場合や、親株用の苗に炭そ病の発生が多い場合は、ハウスビニル被覆後の本田の株から発生した秋冬ランナーを利用する。
- 親株の定植前に冷蔵処理（5℃以下の低温に20日間程度）を行うと春先のランナー発生が良くなる。  
※ハウスビニル被覆前に発生したランナーは降雨により炭そ病に感染している可能性が高いため、必ずハウスビニル被覆後に発生したランナーから採苗する。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**

## トピックス「早期作型の2番果房分化を検鏡で確認していますか？」

早期作型のあまおうは、10月1～3半旬の日最高気温が25℃以下で、生育旺盛でなければ2番果房は分化し、分化時期は通常10月15～20日です。（例年10月1日頃より25℃を下回ります）

今年はこの時期の1か月予報では、平年より気温が高いと予報が出ています。

いつ分化するのか（したのか）内葉数は何枚なのかで、その後の管理が変わってきます。

2番対策を行いながら、確実に花芽分化を確認したら生育促進を図りしっかりとした株を作りましょう。

早期作型における「定植後の草勢」と「2番果房の分化時期」の関係

